

N
H
K
オリ
ン
ピ
ッ
ク
ミ
ニ
ド
ラ
マ
6
0
秒

「母にケーキを」

脚本
大岡俊彦

○直樹の引きこもりの部屋、夜

暗い部屋でパソコンに向かっている直樹（35）。髪はボサボサ。

直樹の書き込み「俺は屑じゃねえよ」

壁につるしたスーツは埃だらけ。

階段を上ってくる音に、耳を澄ませる直樹。

廊下の外の母（55）とカットバック。

母 「直樹ちゃん、おたんじょうびおめで

とう」

直樹 「……」

母 「あのね」

直樹 「うるせえババア！ 飯だけ置いてけよ！」

母 「ごめんね、ごめんね……」

階段を下りていく音。

直樹、扉を開けると、食事の脇にショートケーキが。

「おたんじょうびおめでとう」のプレートと、三本の蝋燭。

直樹 「……ひきこもり三歳おめでとう、つてか？」

ケーキをつかんで壁に投げつける。

母、階下でその音におびえる。

直樹、イライラしながらテレビをつけると、ちょうど井上康生が表彰台に上がったところ。

まぶしさに消そうとするが、実況の言葉に手が止まる。

実況 前、「井上選手はお母さん子でした。一年お母さんが天国に……」

階段を降りてゆく母のイメージ。

つぶれたケーキ。割れたプレート。

大盛りのごはんからの湯気。

テレビに映る井上選手の母の遺影。

感極まっている井上。

直樹 「いなくなることも、あるんだな……」

○翌日、リビング

母 「え？ あ、あれ？」

スーツを来た直樹。

直樹 「バイト探してくる」

○後日、夜、リビング

母 「おかえり」

直樹のお土産の箱を開けると、台無しにしたケーキと同じものがふたつ出て来る。

母 「……」

母、急いでフォークを取りに行く。

T

「越えよう。(シリーズ的なコピー)
オリンピック・パラリンピック」